
呪われたジュリア

森本なおや

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

呪われたジュリア

【Zコード】

Z0751A

【作者名】

森本なおや

【あらすじ】

平凡な町にある、平凡な中学校に通うかなり非現実的な美少女、栄華樹里阿。彼女の趣味は人殺し、そして人の血肉を喰うこと。イケナイことと理解しつつもやめられずに殺人を繰り返す彼女が歩む道はなんなのか？

序章・八人目なの・・・

「ねえねえ神楽君」

鼓動が速くなる

「えつとなにかな？」

さらに速くなる

「えつとね～、私を殺してほしいの」

・・・・・・・・は？氣が抜けた。

思わず返答に困って硬直する。だつて普通そつだらう、つい一々三時間前に、

「話があるから、放課後、校庭にきてね」

と、ウインクされながら言われたら、告白じやないか？つて期待するだろ！？友達一同そろつて

「ぜつたい告白だつて！」

てゆうし、実際俺もそつじやないかときたいしながら校庭にきたのに、一言目が

「殺して」

なんて予想してなかつたつの一そりや固まるつて、絶対。てゆうか絶対て言えるのは、

「殺して」

なんてのは「冗談だつて事だがな。・・・と思つたのも束の間、

「嫌かな・・・？私を、栄華樹里阿を殺すの・・・。」

と泣きそうな顔で聞いてきた。

「いや、冗談ならほかに当たつてくれ。付き合つてゐる暇ねえし。」

はつきり言つて、少し頭にきてた。

そりや勝手に期待してただけだけビビ、んな冗談言つなら教室でもいいじやねえか。

「そつか、そだよね。人殺したりなんかできないね。普通の人間

なんだし。」

唐突に、樹里阿は言葉を発した。

俺はその言葉を無視し、校庭から離れようとする。
だが、

「神楽君で八人目だよ。・・・殺すの。」

・・・え？ なに？ ころす？ え？ そう？ 惑つているつむじに、樹里阿が
俺の目の前に立ちはだかつて

「さよなら。」

と呟いた、途端に俺の体から、何かがなくなつた。

・・・うで・・・いつの間にやら、樹里阿の左腕の中に俺の腕があつた。

なんで！？ どうして！？ おレのつデガソコにアルンだ！？ ・・・か
なりおかしくなつたようだな。

思つたのではなく実感した。

非現実的なことが起こつたことと、かなりの激痛でイカレたんだろう。

そんな感じでいろいろ考えてたら、体の四分の一がすでになくなつ
ていた・・・。

両腕に右足、腹には風穴空いてるし、口がなくなつていて喋れない。

あ、いま首から上がもぎ取られた・・・。それから一秒後ぐらいに
「ごめんね、神楽君。私病気なの。人を殺すのが・・・楽しいの・・・。
。」これはイケナイことだよね。だから殺して欲しかったの・・・。
」

と聞こえた。

・・・俺が最後に見たのは、俺の体を、悲しげな顔をして、でも樂

しそうに、勢いよく喰っている、樹里阿の姿だった・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0751a/>

呪われたジュリア

2010年10月9日07時57分発行